

医薬保健学域 保健学類 診療放射線技術学専攻
【授与する学位】学士（保健学）

大学（大学院）の目的
金沢大学は、教育、研究及び社会貢献に対する国民の要請にこたえるため、総合大学として教育研究活動等を行い、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

学類（研究科）の教育研究上の目的
医薬保健学域は、高齢化・少子化や疾病構造の変化を背景に、日常生活の質〔Quality of Life(QOL)〕を重視した患者本位の全人的医療の提供のため、関連する医学、保健学及び薬学の分野が相互に協力して、統合的な医療教育を行い、人間性を重視し、総合的な能力を有する高度医療人及び研究者を養成することを目的とする。 保健学類は、保健学における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、豊かな人間性と高い倫理観を備えた高度な医療人としての看護師・保健師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・作業療法士を養成するとともに、保健学の発展を担う教育研究者を養成する。また、医療人としての社会的使命感を涵養し、現代社会及び将来の保健・医療・福祉における諸課題を探索し解決できるような、総合的で学際的な保健学の能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
【卒業認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】 本学保健学類では、保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与する人材を養成するという教育理念に掲げた人材を育成するため、所定の卒業要件を満たし、以下に掲げる学修成果を達成した診療放射線技術学専攻の者に、学士（保健学）の学位を授与します。	【教育課程編成に関する基本的考え方】 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を養う。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を養う。 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を修得し、理解力、観察力、判断力を養う。 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を養う。 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を養う。 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を養う。 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を修得し、さらに問題解決能力を養う。 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを養う。 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を養う。	【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】 保健学類 保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とする。教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察できる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観など医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知識の統合による教育・研究能力の育成である。 保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュラム編成が行われており、このため募集単位は看護学専攻、診療放射線技術学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を設ける。 診療放射線技術学専攻 放射線技術学は、放射線、磁気、超音波を使用した医療機器の原理や特性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機能並びに医薬品に対する生物学的な特性などを修得する学問である。診療放射線技師となるために必要な専門技術を修得するとともに、医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。また、研究室配属を通じて、将来の放射線技術学を担う課題探求能力や、研究者となるための基礎も身につける。卒業時には、診療放射線技師の国家試験受験資格を取得することができる。
【学生が身に付けるべき資質・能力】 保健学類の学生として、以下の資質と能力を身に付ける。 1.保健・医療・福祉分野に共通の教養的資質と専門的知識・技術を修得し、生涯教育を志向できる。 2.医療人として自主的に学修し、その専門分野の知識・技術を活用できる。 3.医療人としての使命・責任の自覚と職業・医療倫理医療制度の担い手として果たすべき使命と役割を理解する。 4.専門性を駆使して医療チームの連携と協働に主体的に取り組むことができる。 5.幅広い教養及び国際性を背景に、現代の多様な国内外の人々のニーズに応え、有効な医療環境を推進して患者中心の医療の担い手となる。 6.英語による国際的なコミュニケーションを含み、多様な人々との人間関係を築くコミュニケーション力を修得する。 また、診療放射線技術学専攻の学生として、以下の目標達成を目指す。 目標A 人体の構造、機能及び疾病を系統立てて理解し基礎能力を身に付ける。同時に、地域社会における公衆衛生について知識を身に付ける。 目標B 理工学、情報科学および放射線の安全な利用に必要な基礎知識を修得し、理解力、観察力、判断力を身に付ける。 目標C 装置の構成や動作原理及び医薬品に対する生物学的特性を理解し、検査に必要な知識や技術を身に付ける。 目標D 医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理および医療情報システムの知識を身に付ける。 目標E 放射線などの安全な取扱いとその関係法規及び保健医療領域における安全管理の知識や技術を身に付ける。 目標F 科学的な見地に基づいて、実験及び研究を進めるための基礎的な知識を修得し、さらに問題解決能力を身に付ける。 目標G 基本的な実践能力を身につけ、放射線部門の運営に関する知識、分析力などを身に付ける。 目標H 患者や医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、医療チームの一員として責任と自覚を身に付ける。	【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】 1. 教育内容 診療放射線技術学専攻では、診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある人材を育成することを目標とする。 ・放射線を含む量子医療技術について基礎から臨床まで幅広い教育を行い、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養う。 ・医療現場において、たえず最新の知識を吸収して臨床現場で生かせるよう、高度先進医療に対応する努力を惜みず、また実地・研究に優れているだけにとどまらず、人間性も豊かな人材を育成することを目指す。 2. 教育方法 1年次では人体の構造、機能や疾病を理解し基礎能力を養う。2年次以降は理工学、画像情報の理論および画像解析・処理など検査に必要な知識と技術を養うと同時に、これらを画像診断、核医学や放射線治療の臨床分野と系統立てて理解できる能力を育成するカリキュラムを編成する。また、実験や臨床実習および卒業研究指導では小人数グループ制を取り入れ、自己探求型の問題解決能力を養う。さらに、医療人としての資質や人間性豊かな人材の育成を目指す。 【学修成果の評価】 (1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法を明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。 (2) 学士課程での学修成果は、「卒業論文」を含めた修得単位数によって行う。 (3) 卒業論文の審査は、論文審査及び口述試験により実施する。	【求める人材】 ・診療放射線技師として保健医療を支えることができる有能な人 ・高度先進医療に対応し常に努力することができる人 ・専門的な知識を習得するのみならず研究・思考することができる人 ・患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を持つ人 【選抜の基本方針】 ■一般選抜 基礎学力に加え、数学・理科及び英語の学力を重視する。 ■KUGS特別入試（学校推薦型選抜） 基礎学力に加え、口述試験で医療人としての適性の評価並びに調査書等の出願書類による総合評価をする。 ■帰国生徒選抜 理科と英語の学力に加え、成績証明書（調査書）による総合評価をする。 ■国際バカロレア入試 口述試験により理系能力及び医療人としての適性の評価並びに提出書類（志願理由書）等による総合評価をする。 ■私費外国人留学生入試 学力検査により本学類の修学上に必要な基礎学力を有しているかを評価し、口述試験を通じて、志願者の日本語能力（対人コミュニケーション能力を含む）、英語能力及び本学類で修学することや医療人として職務を遂行することの適格性及び適性を評価する。
		【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】 科学的な視点で事象を理解するための基礎的な知識が必要であり、理科・数学を学んでおくことを望む。また、文章を正確に読解し、事象に応じた的確に記述する国語・英語力の習得を望む。